

夏期講習だより

第4号

文責 山崎豊茂（伊那中学校）

6月19日（木）第3回 夏期講習事前読み合わせ会報告

第3回読み合わせ 令和7年6月19日（木）

読み合わせ範囲 「西田哲学選集」第一巻 「西田幾多郎による西田哲学入門」 第二部「善の研究」
第八章 自然、第九章 精神

司会者 松永泰幸先生（西箕輪小） 松田涼子先生（春富中）

【松田涼子先生レポートから】

1. はじめに

読み解くにあたり、通して読んでみても今回の担当範囲を読んでみてもやはり「実在」というものをかんがえていくことが一番ではないかと考え、担当範囲を超えてのレポートとなった。結局は「考えている私の中にすべてが存在している」ことが言えるのではないかと考える。自然は一見純物質なるもので構成されているように感じられるが、そう考え自然を捉えているのは「私」だ。西田も例に挙げているように、生物学者は自分の生活本能を以て生物の現象を説明し、美術家は物質としてではなく「統一的或るもの」＝「その物の自己」「その物の物体」を見ているのではないか。また九章の最後「統一を助くるものが快樂で、それを害するものが苦痛」という一文から、寝ていることは無意識、寝られないのは寝ることを意識してしまう、寝なきゃ寝なきゃ…となればもはや苦痛となる。また壁にぶつかったときに人は考え、そうでないときはあまり考えずに動き、思うように物事が進んでいるときは無意識で集中していることになる。

2. 「存在」

実在を考えるにあたり存在を定義すると、「存在」とは分別知、つまり認知され、言語化された概念であると考えられる。佐野洋子さんの絵本『100万回生きたねこ』から、ひとは他者と関わることで「他者と自分」という分別知ができ、言葉で全てを概念化するというに言い換えられる。次に死後の自分から存在について考えた。「私」以外の存在がいるから「自らの存在である」と考えられる。しりあがり寿さんのマンガ『弥次喜多 in deep』の中の、「そうか、手っていうには人に握られて初めて存在するんだ！！よし、じゃあ次は顔だ！！ヤジさんオイラを見てくれ」というセリフがあるがここで「私という存在」は他人の認知によって初めて存在することを示している。これは西田幾多郎の言う「認識の存在」であると考えられる。しかし彼が「善の研究」で述べているように、それは「実在」とイコールではないと私は考える。そこで「実在」とは何かといえ、私は「直観的世界」と考える。

3. 直観的世界の考察

まず「人間の経験はすべて言葉で表されるのか」。人間は常に「経験」に基づいて考え、行動し、生活している。思考活動、行動、生活すらも「経験」であり、それは生命活動の基盤となっている。一見、「人間の経験には言葉が付随する」ように見えるが、この経験にはしばしば感情が付随する。例えば何もかも忘れるほど没頭できる本に出会ってそれを読み終えた瞬間や、美しい音楽を聴いたときに、言葉より先に出てくる「瞬間の感情」があり、それを言葉で後付けの感情を伝えているにすぎないと思われる。つまり、

言葉では語ることのできない世界が直観的世界であるといえる。

4. まとめ

人間の内面において経験が言語化されるとき、直観的世界（真実在）は確かに在るが、言葉を付随した別のものになってしまう危ういものだと言える。

【グループ討議のまとめ】

* Aグループ

自然は精神、自己との関連を考えて討議を行った。

* Bグループ

完全な主観と客観というものはないというところに注目した。子どものありのままの世界という言葉も、教師が経験したり良いように取ったりするものだと考えた。

* Cグループ

眠ることについて無意識でできることや、意識してしまうことがあるという部分がイメージできた。

* Dグループ

言語化ということで、例えば自分のクラスでケンカがあって当事者に話を聞いてもなかなか考えていることを言葉で言い表せないことがあったことが具体例として考えられた。

* Eグループ

音楽会の中で、子どもたちが何を得たのかと思うが、言葉で言い表せないことがあるのだというように思った。

【唐澤 正吉先生より】

- ・我々は常に他者との関りの場に出て触れ合って活動している。内と外にも純粹経験がある。
- ・時間や空間の外に出られない。
- ・純粹経験は自己の理解と同じ。これは禪の考え方と同じ（＝東洋哲学）。
- ・自然あるいは宇宙と通じている。・自然には自己がある。ないと言っているのは科学者であり、西田はあると述べている。統一力によって自然にある。
- ・西田にとって「物」＝「他者」と考える。
- ・事実そのままに見る＝知るということは、子どもを見ることから考えてもなかなか難しい。花や木は私たちが勝手に「こうだ」と決められるが、子どもたちはそうはいかないので難しい。
- ・言葉で言い表せないものが世の中にある。
- ・言葉でないもの、見えないものを大事にすることで、子どもを見るということはどういうことか、子どもを知るということはどういうことか考えるきっかけになると思う。